

田上時子のエッセイ →

「東京ビッグトーク ～石原知事と議論する会」に出演して

3月中旬、事務所に東京都知事本局長から電話があった。内容は「石原都知事は、今後の国の浮沈を左右する大きな課題として次代を担う人材育成をあげ、教育改革に取り組んでおり、この度、「子どもの耐性を如何に培うか」をテーマに、知事と教育関係者とが議論する「東京ビッグトーク ～石原知事と議論する会」を開催することになった。ついては、(知事本局長の言葉によると)女性や子どもなどの社会的弱者への人権侵害を許さない社会の実現を図る活動のため精力的に活動されている田上さんに、コメンテーターとしてご参加いただきたい」ということだった。他のコメンテーターは、川淵三郎氏(日本サッカー協会名誉会長)、戸塚宏氏(戸塚ヨットスクール校長)、工藤定次氏(青少年自立援助センター理事長)、コーディネイターはフジテレビアナウンサーの須田哲夫氏という。断る理由もないので引き受けた。

5月11日、東京都庁には約650名の都民の参加があったが、その中に友人の知人がおり、後日友人を介して『・「耐性をいかに培うか」について教育改革の視点からの大討論会とはお題目で、戸塚氏を正当化し、知事の持論を披露する会のように感じました。田上さんも健闘されましたが討論会どころか絡んでもこない状態。時間的制約があり突っ込んだ討論には至らなかった、というよりする気がなかったのでしょう・・・』と的を射た感想メールを受け取った。

翌日の各社報道の私の発言だけをコピーして貼り付けると次のようになる。

- T新聞—「体罰に頼るのは親の知恵がないから」
- Y新聞—「体罰に頼る親は教育の工夫をなくす」
- M新聞—「体罰に頼るといのは、親としての想像力や知恵がない。自分も手を挙げたことがあるが、娘に伝わったか疑問」
- S新聞—「体罰は否定しないが子は親を手本にする。親も自らの耐性を育てなければ」

90分の全トークのうち、私が発言できたのは計3回。時間にして10分ぐらい。それでも石原知事に次ぐ長さだったが、S新聞に至っては全くの誤報。「体罰を否定しないが」とは断じて言っていない。むしろ、余りにも壇上の発言が偏っていたので、せめて会場の参加者には「暴力を否定する」側の考えを伝えるのに必死だったがために(マスコミは眼中になく)事例を挙げての念入りな説明が、結果的には短く簡潔なフレーズでしか採用できないマスコミ対応としては十分でなかったと少し反省している。

当日の「発言要旨」は東京都ホームページに掲載され、様子はYouTube 東京都チャンネルにアップされるらしい。ご覧あれ。

